

## 令和6年度 第3回創造農村部会 開催報告

### 【全体概要】

- 第3回創造農村部会は5自治体が参加し、令和6年度の実施内容の振り返り及び令和7年度の実施内容の検討を行った。
- 令和6年度の実施内容の振り返りでは、第1回創造農村部会に真田先生を招き勉強会を実施したこと、また第2回創造農村部会では真庭市にて渋沢先生の講演会及び太田市長、渋沢先生、佐々木先生によるトークセッションを実施したことについて、それぞれの感想共有や各自治体で各内容をどのように生かせるかについて意見交換が行われた。
- その後、令和7年度の日程案やプログラム内容案、現地開催都市の検討が行われ、最後にCCNJ顧問の佐々木雅幸氏から総括をいただいた。

開催日時	令和7(2025)年1月29日(水) 10:00~11:40
開催方法	オンライン開催(ZOOMミーティング)
主催	丹波篠山市
共催	創造都市ネットワーク日本(CCNJ)、文化庁
参加人数	18名(特別参加者1名含む)
参加自治体・団体数	5自治体
プログラム	<input type="checkbox"/> 開催挨拶 ・酒井篤史氏(丹波篠山市 企画総務部 ブランド戦略課 課長) <input type="checkbox"/> 令和6年度第1・2回の創造農村部会の振り返り (1)第1回創造農村部会の振り返り (2)第2回創造農村部会の振り返り <input type="checkbox"/> 令和7年度の創造農村部会の実施内容について (1)部会の大枠の確認 (2)令和7年度第1回創造農村部会の実施内容検討 (3)令和7年度第2回創造農村部会の実施内容検討 <input type="checkbox"/> 総括 ・佐々木雅幸氏(大阪市立大学名誉教授/CCNJ顧問)

### 【担当者ミーティング概要】

#### 1. 第1回・第2回の創造農村部会の振り返り

##### (1) 第1回創造農村部会の振り返り

- ・部会員から、農業政策と農村政策の協調についての意見が共有され、農業施策の充実が農村の発展に不可欠であるとの指摘があった。また、地域の価値を深く理解する人を増やし、市民が地域資源に誇りや愛着を持てるようにするにはどうすべきかについて検討していく必要があるとの意見が出された。さらに、消費者の意識を変えていくことが重要な課題であるという考えが示され、特産品等の付加価値を付けていくためにどうすればいいか考えたいとの意見が共有された。
- ・今回の意見交換を通じて、地域資源の活用や意識変容の重要性が改めて認識され、今後の施策を進める上で、多様な部署間での連携が求められることが確認された。

## (2) 第2回創造農村部会の振り返り

- ・部会員から、いままで市外から人を呼び込み、外部からの経済効果を生み出す仕組みを検討していたが、地域内での経済循環を促す視点についても学ぶ機会となったとの意見が出た。また、コロナ禍により既存の「つながり」が希薄になっている現状を踏まえ、行政として地域の関係者同士が交流できる場をどのように提供できるかを検討する必要があるとの指摘が示された。
- ・また、アートを活用した環境課題解決の取組を現地で直接確認できたことに対して、肯定的な意見があり、現地を訪れて人の顔を見ながら対話し意見交換を行うことが、創造農村部会においては重要な意味を持つとの認識が示された。実際の現場での学びや交流の機会が、今後の取組を考えるうえで有意義であることが共有された。

## 2. 令和7年度の創造農村部会の実施内容について

- ・部会の大枠（開催回数・開催方法・開催予定時期）については、令和6年度と同じ内容（全3回・うち1回を現地開催）とすることで全部会員が了承した。
- ・勉強会テーマについては、第1回創造農村部会の開催前に勉強会の事前アンケートを実施し、部会員の関心を把握した上で、事務局が検討を進めていくことで承認された。

## 3. 総括／佐々木雅幸氏（大阪市立大学名誉教授／CCNJ 顧問）

- ・CCNJ と UCCN は同じ目的で活動する組織であるため、UCCN 国内部会とは将来的には一体化を目指したいとの意見が出された。創造農村部会は国際ネットワーク部会に比べて規模が小さいものの、小規模自治体が抱える課題は、むしろ世界の他国にも影響を与え得るとの考えを示された。

